

## 第4学年道徳科学習指導案

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時

場 所 4年〇組教室

授業者 教諭 〇 〇 〇 〇

### 1 主題名 友達とのよりよい関係「B-(9)友情, 信頼」

#### 2 ねらいと教材

##### (1) ねらい

正しいことは分かっているにもかかわらず実現できない理由を考えるを通して、友達のことを理解し、よりよい関係を築こうとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

##### (2) 教材名

「卓球は四人まで」(文部科学省 小学校道徳 読み物資料集)

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

本主題は、小学校学習指導要領特別の教科道徳、内容項目B-(9)「友情, 信頼」の「友達と互いに理解し, 信頼し, 助け合うこと」を受けている。

児童にとって、友達関係は最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育てていくことができるように指導することが大切である。

中学年の段階においては、活動範囲が広がることで、集団との関わりも増え、友達関係も広がってくる。また、気の合う友達同士で仲間を作って自分たちの世界を確保し、楽しもうという傾向があり、集団での活動などがこれまでになく盛んになる。しかし、自分の利害にこだわることで、友達とトラブルを起こすことも少なくない。このような時期だからこそ、友達のことを理解し合い、よりよい関係の在り方を考え、行動しようとする道徳的実践意欲と態度を育てるようにしたいと考え、本主題を設定した。

##### (2) 児童のこれまでの学習状況や実態

本学級の児童は、4年生となって半年以上経ち、気の合う友達同士で仲間を作って休み時間に楽しく過ごしている。しかし、自分勝手な行動を取らないことなど、友達との関わる時に大切なことは分かっているにもかかわらず、実際には相手のことを考えなかったり、自分の利害にこだわったりすることで、友達とトラブルを起こしてしまう様子も見られる。

児童は、3年時に「友達のよさを発見することで友達のことを理解すること」について学んでいる。本時の学習ではこの指導内容を発展させ、「友達とのよりよい関係の在り方を考えること」について考えさせたい。そして、高学年での、「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」の学習につなげていきたい。

### (3) 使用する教材の特質

主人公のしゅんは、なかなか取れないスポーツセンターの卓球コーナーの予約が取れ、仲良しの友達3人を卓球に誘う。そこへ特に仲が良いわけではないとおるが仲間に入れて欲しいと言って来るが「卓球は4人まで」と言って断る。その後、しゅんは悪いことをしたと思い、とおるに謝って卓球に誘うが、とおるは「4人までなんだろ」と誘いを断る。断られたしゅんは何とも言えない気持ちになる。その後、仲良し4人で卓球をしたが、しゅんは楽しめなかった。卓球の途中でしゅんは友達3人に相談する。そして、次の日に、とおるに謝って遊びに誘うことに決める。

主人公のしゅんの自分の利害関係のみにとらわれてとおるを傷付けてしまった行動を通して、友達とのよりよい関係の在り方を考えさせることのできる教材である。

### (4) 指導観

中学年になると人間関係が広がり、友達との関わりを重視するようになる。しかし、仲の良い友達だけでグループを作って遊ぶことが多く見られることから、固定化しやすい仲間集団をより広い友達関係へと向ける必要がある。

本時の指導に当たっては、導入場面で、友達がいて良かったと思うことだけでなく、友達との関わりでうまくいかなかったことはあるかを問い、友達関係について自分の経験と照らし合わせて考えさせる。ただし、うまくいかなかったことについては無理に聞かず、友達と関わりにおいて難しいと感じさせる程度で押さえ、そのときの気持ちを問い、辛い等の気持ちから本時の課題につなげていく。

展開場面では、しゅんがやっと予約が取れて仲良しの友達3人と卓球をするのが楽しみであるということに気付かせる。その上で、「仲間に入れて」と言ってきたとおるに「卓球は4人まで」と断ったしゅんや一緒にいた仲良しの3人の友達の行動を通して、正しいことは分かっているけどできないことがあることに気付かせる。中心場面では、児童の実態を踏まえて、正しいことは分かっているけどできないことがある理由を考えさせ人間理解を深めさせる。児童自身が自分の考えが可視化できるように思考ツールであるウェビングマップを活用する。そこから、このままでは良くないことを感じさせ、どうしたら良いか解決方法を考える。その際、正論に偏らないように、中心場面での児童の考えを関連付けながら、自分の生活と結び付けて考えられるようにする。

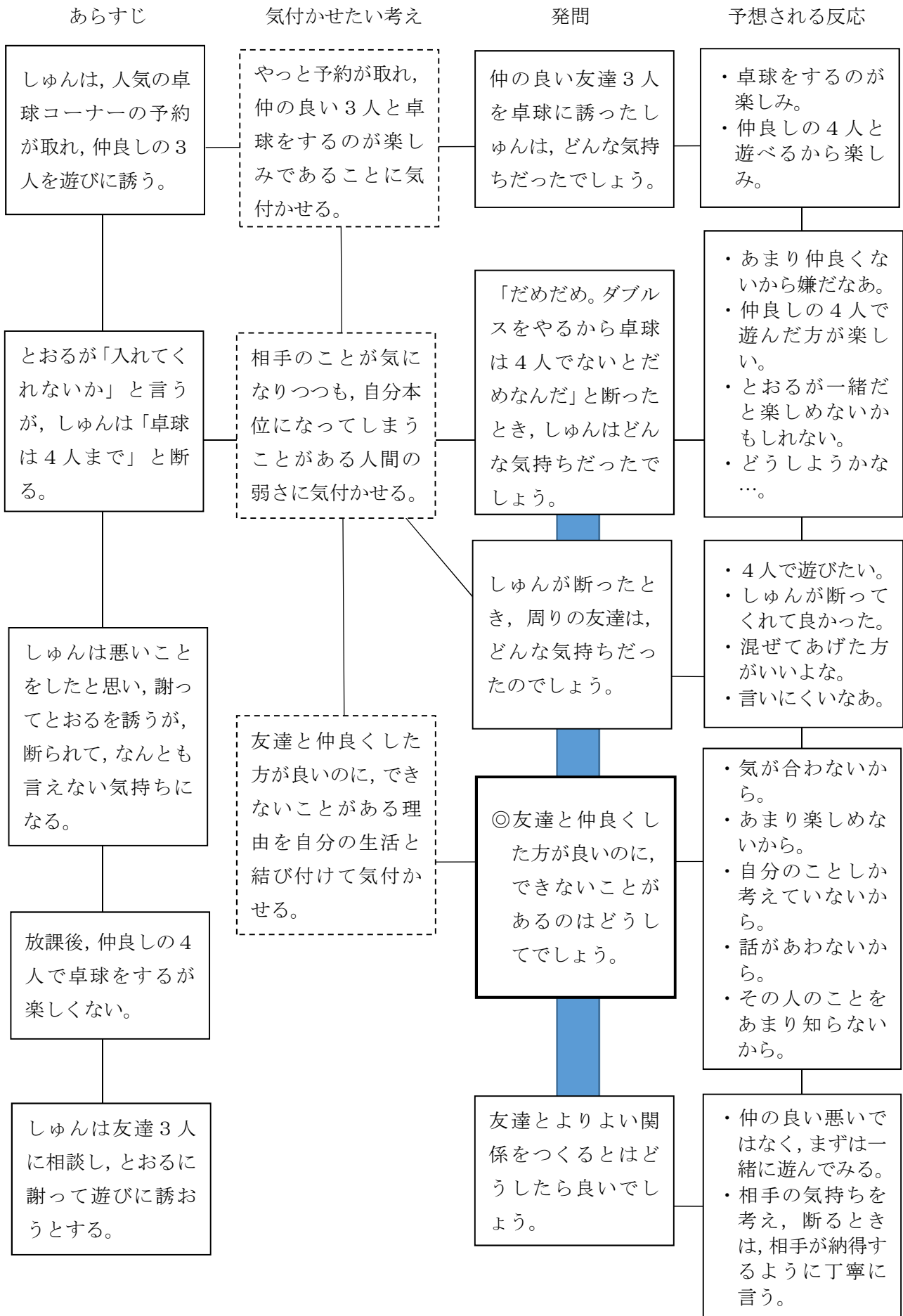
児童の学習状況を見取るために、板書の記録、ワークシートを活用する。板書の記録については、児童の発言や思考の流れが分かる板書構造にし、授業後に写真を撮って振り返ることで、児童の考えを見取るとともに、教師自身が授業を振り返る際にも活用する。ワークシートについては、中心場面で児童が考えたことが、友達との交流を通してどう広がったかを青ペンで加筆させることで見取る。

4 教材分析・発問構成 . . . 別紙

5 学習指導過程 . . . 別紙

6 他の教育活動との関連 . . . 別紙

(別紙) 4 教材分析・発問構成



(別紙) 5 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 (◎中心的な発問) ●補助発問 ・児童の反応	指導上の留意点
<p>導入 5分</p>	<p>1 本時のねらいとする道徳的価値についての問題意識を持つ。 (一斉→個人)</p> <p>2 課題をつかむ。(一斉)</p>	<p>○友達がいて良かったと思うのはどんなときですか。 ・助けてもらったとき ・楽しく遊んでいるとき ・勉強を教えてもらったとき</p> <p>○友達とうまくいかなかったときはありますか。 ・悪気なく友達を傷付けた。 ・けんかをした。</p> <p>○友達とうまくいかなかったとき、どんな気持ちでしたか。 ・嫌な気持ち。 ・悲しい気持ち。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>友達の大切さだけでなく友達とうまく生活することは簡単ではないことも感じさせ、問題意識を持たせる。(問)</p> </div> <p>・友達とうまくいかなかった経験については無理に聞こうとはせず、友達と生活することは難しいと感じる程度とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の経験と照らし合わせて、友達とうまくいかなかった経験やそのときの気持ち考えられるようにする。(自)</p> </div>
<p>展開 30分</p>	<p>3 範読 (p 46, 6行目まで) を聞き、登場人物の気持ちを考える。(一斉)</p> <p>4 仲の良い友達を卓球に誘ったしゅんの気持ちを考える。(一斉)</p> <p>5 「卓球は4人まで」と断ったときのしゅんや3人の友達の気持ちを考える。(一斉)</p>	<p>○「だめだめ。ダブルスをやるから卓球は4人でないとだめなんだ」と断ったとき、しゅんはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・あまり仲良くないから嫌だな。</p>	<p>・登場人物の気持ちに迫りやすくするために簡単にあらすじを押さえてから範読をする。</p> <p>・主人公のしゅんの気持ちを考えながら範読を聞くようにする。</p> <p>・しゅんの、やっと予約が取れ、仲良しの友達3人と卓球をするのが楽しみであるという、自分の利害を優先にしていることに気付かせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>しゅんや3人の友達に自分を投影させて考えられるようにする。(自)</p> </div>
<p>友だちとよりよい関係をつくるとはどういうことだろう。</p>			

	<p>6 友達と仲良くすることは大切だと分かっているけど、できないことがある理由を考え、どうしたら良いか考える。</p> <p>(個人→ペア→一斉)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良しの4人で遊んだ方が楽しい。</li> <li>・とおるが一緒だと楽しめないかもしれない。</li> <li>・どうしようかな…。</li> <li>● やっと予約が取れて、4人で卓球をするのが楽しみだったのではないですか。</li> <li>○ しゅんが、「卓球は4人まで」と断っているとき、周りの友達は、どんな気持ちだったでしょう。</li> <li>・4人で遊びたい。</li> <li>・しゅんが断ってくれて良かった。</li> <li>・混ぜてあげた方がいいよな。</li> <li>・言いにくいなあ。</li> <li>○ あなたは、こういう気持ちが分かりますか。</li> <li>・分かる。 ・分からない。</li> <li>・分かる気がする。</li> <li>◎ 友達と仲良くした方が良いのに、できないことがあるのはどうしてでしょう。</li> <li>・気が合わないから。</li> <li>・あまり楽しめないから。</li> <li>・自分のことしか考えていないから。</li> <li>・話が合わないから。</li> <li>・その人のことをあまり知らないから。</li> <li>○ 友達とよりよい関係をつくるには、どうしたら良いでしょう。</li> <li>・相手の気持ちを考え、断るときは、相手が納得するような丁寧にする。</li> <li>・自己中心的な考えをやめて、相</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダブルスだから仕方ない等の正論に偏った場合は、補助発問で、仲良しだけで遊びたい等の人間の弱さも引き出せるようにする。</li> <li>・児童が考えた、しゅんや3人の友達の気持ちの中に迷いが感じられる場合は、相手のことを思っていることが考えられる。理由も聞くことで、相手のことは気になりつつも自分本位になってしまうことがある人間の弱さに気付かせたい。</li> <li>・しゅんや周りの友達に共感させて、中心的な発問につなげる。</li> </ul> <div data-bbox="1058 1211 1434 1666" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分で考える時間、交流の時間を設ける。ワークシートには、仲良くした方が良いのにできないことがある理由を書かせ、それを基に交流ができるようにする。その際、友達の考えを加筆し、視覚的に自分の考えの広がりが見えるようにする。(多)(自)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流後、このままで良いかを問い、どうしたら良いか次の発問につなげる。</li> <li>・正論だけになってしまわないように、補助発問で前問の児童の考えと関連させながら、児童の考えを深めさ</li> </ul>
--	--	---	---

	<p>7 自分の生活を振り返り、友達とのよりよい関係について考える。 (一斉)</p>	<p>手の話も聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良い悪いで判断しないで、まずは一緒に遊んでみてから判断する。</li> <li>・自分がされたら嫌ではないかを考えてから行動する。</li> <li>●先程、〇〇と考えていた人がいたけど、それで本当によりよい関係と言えますか。</li> </ul> <p>○これまでの生活を振り返り、友達とよりよい関係をつくる上で、良くなかったことはありますか。または、良かったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お弁当を食べるときに、友達をグループに混ぜてあげられなかった。</li> <li>・休み時間に席に座っていた友達に声を掛けてあげることができた。</li> </ul>	<p>せることを意識する。そうすることで、より自分のこととして考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前問の児童の考えと結び付けて、板書をする。</li> <li>・全体で交流した後、改めて自分の考えを持てるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt; 友達と仲良くすることは大切だと分かっているけど、できないことがある理由を考えることを通して、自分との関わりで、友達とのよりよい関係をつくることについて考えようとしていたか。(多)(自)【ワークシート・観察・発言】</p> </div>
<p>終末 10分</p>	<p>8 自己の生き方について考える。 (個人)</p>	<p>○今日の授業を通して感じたことや考えたこと、これからの生活に生かしていきたいことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私は自分のことばかり考えて、あまり相手の気持ちを考えていないように思う。すぐに決めつけしないで、相手の話を聞くようにしたい。</li> <li>・相手の気持ちを考えることは大切だと分かっても、行動に移すのは難しいと思った。自分の気持ちと相手の気持ちのバランスを考えていきたい。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自分の心と照らし合わせながら自己の生き方について考えを深めさせるために書く活動を取り入れる。 (生)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>&lt;評価&gt; 友達とよりよい関係をつくることを自分との関わりで考え、自分の生活に照らし合わせて考えようとしていたか。(自)(生)【ワークシート・観察・発言】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の最後の場面で、しゅんたちの取った行動を伝え、自分の考えと比較しながら聞くようにする。</li> </ul>

(問) : 問題意識を持たせる

(多) : 多面的・多角的に考えさせる

(自) : 自分との関わりで考えさせる

(生) : 自己の生き方について考えさせる

【評価】

<児童の評価>

・友達と仲良くすることは大切だと分かっているけどできないことがある理由を考えるを通して、自分との関わりで、友達とのよりよい関係をつくることについて考えようとしていたか。

(多) (自) 【ワークシート・観察・発言】

・友達とよりよい関係をつくることを自分との関わりで考え、自分の生活に照らし合わせて考えようとしていたか。

(自) (生) 【ワークシート・観察・発言】

<教師側の授業評価>

・中心的な発問を通して、自分との関わりで友達とのよりよい関係の在り方について考えさせることができたか。

(多) (自) 【ワークシート・観察・発言】

・友達とよりよい関係の在り方について、自分の生活と照らし合わせて考えさせることで、自己の生き方についての考えを深めさせることができたか。

(自) (生) 【ワークシート・観察・発言】

【板書】

○月○日 第○回 道とく

「卓球は四人まで」

4人で話をしている絵

友だちとよりよい関係をつくることについて考えよう。

「だめだめ。ダブルスをやるから卓球は4人でないとだめなんだ」

しゅん

いやだなあ。4人の方が楽しい。

友だち

4人で遊びたい。ことわってくれてよかった。まぜてあげた方がいいな。言いにくいなあ。

なかがよした方が良くいけど…

良いところをさがす

気が合わない

なかがよくできない…

自分のことしか考えていない

うまくいかない…  
いやな気持ち  
悲しい気持ち

話が合わない

楽しめない

ことわるときは  
ていねいに

まずは遊んでみる

あまり知らない

相手の話を聞く

【準備物】

教師：教材，ワークシート，挿絵

児童：教材，筆記用具

(別紙) 6 他の教育活動との関連

